

YOGA WORKS

いつも一緒に歩いていく。

yoga works

インストラクターなら一度は触れ 信頼している日本初のヨガブランド

vol.2

老舗ブランドとして知られるヨガワークス。
そのプロダクトは、ヨガを学ぶ人達やインストラクターに愛用され続け、近年の日本のヨガシーンを支える存在となっている。
キーワードからヨガワークスを探るシリーズ第2弾では、代表を務める綿本哲氏へインタビュー。その想いに触れる。

写真：市田智之、葛西亞理沙

日本初・東京発のヨガブランド

ヨガは毎日行うことで心身を調えていく。そのためには、アライメントの整ったポーズを取ることが必要。ポーズを取る際に、手足が滑らないようヨガマットやヨガプロップスを使うのも、アライメントを整えやすくするためだ。加えて、ヨガマットを広げる行為は、「これからヨガを始める」という自分への合図となり、日常と切り替えるきっかけ作りを促してくれる。まさに、欠かせないアイテムであり、見方を変えれば、これらのアイテムさえあれば、すぐにヨガを始められるということでもある。だからこそ、ヨガマットやヨガプロップスはきちんと選ぶべきなのだ。

ヨガワークスは、日本初・東京発のヨガブランドとして2003年にスタート。その後、ヨガをたしなむ人が集まる場には、ヨガワークスのプロダクトが空気のように存在するようになっていった。そして、これらのプロダクトを愛用しながら育ったインストラクターたちは、スキルを上げていってなお、新しいプロダクトをヨガワークスから選ぶ。理由は明快。クオリティや使い勝手が変わらないから。そして、ヨガにかかる人達が皆、充実した日々を送れるようになるから。

今や日本のヨガシーンを支えるに至ったヨガワークス。その背景を探る連載の第2弾は、「安心感」をキーワードに展開する。

プロダクトから 広げていく「安心感」とは？



「ヨガフェスタ」の
トライアルクラスの
プロデュース

「ヨガフェスタ横浜」や
「カフェヨガ」などのイベントに
おけるプロダクトサポート

トップ
ティーチャーの
育成

安心感

インストラクターへの
手厚いサポート

スペシャリストとの
プロダクト共同開発

プロダクトを卸価格で
購入できる取扱店登録制度
による収入増加

ワークショップ
などへの
サポート

増え続けているインストラクターのスキルアップを願い、さまざまなサポートを行っている。アジア最大級のヨガイベント「ヨガフェスタ横浜」のトライアルクラスのプロデュース、「カフェヨガ」などのプログラムサポート、各種イベントやレッスン向けのプロップスレンタルなども、積極的に進めてきた。

「サポート体制を整えることでインストラクターは安心感を抱き、その先にいる生徒さんにも心がつながっていく」

ヨガワークスは、2003年の創業以来、ヨガマットやヨガプロップスを創り続けてきました。もっとも、プロダクト創りが最優先ではないんです。品質に優れたプロダクトを創るには、ヨガを教わることには当然であって、ヨガが会員の人や教える人、その人たちが出会い、実践する場所を充実させることをより重視しているんです。

ヨガマットに見出した 2つの役割で安心感を導く

ヨガマットは、25年ほど前まで遡ります。実は当時、ヨガのインストラクターとして指導していたんですよ。現在のように設備の整ったヨガスタジオや、フィットネスクラブのヨガプログラムは数えるほどしかなくて、公民館のホールなどで指導すること多かったです。床が硬い場所では、生徒さんにバスタオルを持ってきても、床に敷いていたような時代です。そこで私は、教わる人も教える人も、より心地よい環境にするにはどうしたらいいのかと考えて、ヨガマットを活用することにしたんです。



SUPYOGA BOARD ¥129,600

SUP（スタンドアップパドルボード）とヨガを組み合わせた、サップヨガのために開発。すでに多くのフィットネスクラブなどで導入されている。



YOGA MAT 3.5mm ¥3,240

7色で展開しているヨガワークスを代表するプロダクト。日本初のヨガブランドとして登場して以来、今まで愛用者を増やしているベストセラーだ。

column

インストラクターが明かす ヨガワークスの魅力

生徒さんに、「どこのヨガマットがいいですか？」とよく聞かれます。私がヨガを始めた時から、どこのヨガスタジオでも触ってきたのはヨガワークスのヨガマットでした。誰もが満足できるクオリティなので、私はヨガワークスのヨガマットをお勧めしています。ある程度の経験を積んだ方には、愛用しているボルスター・やヨガブロックを勧めこともあります。サイズ、重さ、感触の心地よさもさることながら、カラーバリエーションが豊富なので選んでいる時間も楽しいんです。

一般の方には「姿勢を安定させるアイテム」として、インストラクターには「職業を成立させるインフラ」として、広めていけばいいんじゃないかと。例えば、「ヨガフェスタ」などのイベントでは、必要なヨガマットやヨガプロップスの多くを提供するようにしました。会社の収益をインストラクターのサポートに還元しながら、ヨガ業界全体のすそ野を広げていくわけです。また、生徒さんがからリクエストがあったときに、インストラクターがショッピング代わりとなつて、各種プロダクトを取り次ぐシステムも採用しました。こうす

ヨガライフを充実させるため プロダクトを生み出していく

「SUPYOGA BOARD」も、定番のヨガマットと目的は変わりません。インフラとして提供することによって、ヨガの選択肢を増やし、水の上で瞑想とヨガの楽しさを伝えるアイテムと位置づけています。その他のプロダクトも、同じ発想で開発して

います。インストラクターとともに新しいプロダクトを開発・普及させて、ヨガにかかる人々が皆安心感に満ちた日々を送れる。それが、ヨガワークスに課せられたミッションであると考えているんです。

profile



綿本哲

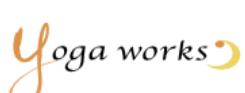
わたもとさとし。ヨガワークス代表。大学卒業後、宇宙開発事業に従事。その後ヨガ教室の経営に携わり、各地でヨガの指導を行う。ヨガの考え方をビジネスに活用する経営コンサルティング会社でITベンチャー系を中心に事業展開。2003年、ヨガワークス設立。2004年、ケンハラクマ先生、綿本彰とともに『ヨガフェスタ』を始動。現在に至る。



澤畠ちぐさ

さわはたちぐさ。モデル、税理士事務所勤務を経てヨガを始める。日本でIHTAヨガインストラクターの資格を取得後、ハワイでRYT200を取得。現在、Yoga hlaada（ヨガ フラーダ）を主宰。都内各所でレッスンを開催している。「ヨガフェスタ横浜2018」ではMCとして参加。

Information



www.yogaworks.co.jp



Follow us!
@yogaworkscojp

